

地球にECO(いーご)としよう



# 省エネグループ通信



## エコライフの学習から すてきな生き方を見つけてほしい

下作延小学校校長 橋本晃一

昨年度末に、2014年は観測史上最も暑い年だったことが、様々な関係機関から発表になりました。「・・・今のペースで温室効果ガスの排出量が増えると、今世紀末の日本の平均気温は4.4度上がる。降雪量は全国平均で今年の130cmから57cmも減る。・・・」(朝日新聞「天声人語」より) こうした気象変動に対して、未来を担う子どもたちに何を伝えていくかを考えることは、学校教育の中でも大変重要な課題であると思われま

す。本校でも5年前より、川崎市地球温暖化防止活動推進センター省エネグループの皆さんを講師にお迎えして、地球温暖化防止への理解⇒学校・家庭での省エネ対策⇒自分の生活の振り返り(エコライフ)、という過程をとりながら、5年生の子どもたちが主体的にエコライフについて考えることができるようにしてきました。子どもたちの取り組みとして難しいのは、地球規模の気象変動と私たちの使う蛍光灯1本を結びつけるという点、身につけている生活行動の仕方を変えるという点にあると思います。それらを解決することとして、まずは興味・関心をもつこと、そして正しい知識を身につけること、意識をして実行することだと思っています。昨年度省エネグループの皆さんの学習で、温室効果ガスによって地球の気温が上昇するしくみについて、模型を使って説明していただきました。子どもたちにとって目に見えないことを理解することはなかなか難しいことですが、実際に温度が上昇する様子を目の当たりにし、「本当だ。すごい。」と実感し、より身近な課題になったものと思われま

す。また昨年度、環境・エネルギーに対する課題を考える前段階で、全ての子どもたちが火おこし体験をすることも始めてみました。火おこしは大変な作業です。だから火を手に入れた時のありがたさは大変な事だったでしょう。そしていつの日か人類は火を上手にコントロールして使うことができるようになりました。今私たちはスイッチ一つで簡単にエネルギーの恩恵を受けることができます。そんな時代だからこそ、コンセントの穴の奥に大きな火が燃え続けていることを意識して、エネルギーを心でコントロールしていくことができるようになってほしいと思います。

今年度も省エネグループの皆さんの力をお借りしながら、エコライフというすてきな生き方を、子どもたちがみつけることを期待しています。



省エネグループによる出前授業

## 省エネグループの2014年度成果と2015年度の計画

### 省エネグループ～誓いも新たに～

省エネグループの主な活動は、家庭の省エネを呼びかける「エコライフチャレンジ」と小学5年生を中心とした「出前授業」を行うことと、環境のイベントに参加し地球温暖化防止の意識啓発を行うことです。2001年からこれらの活動を始め、その間種々の表彰をいただきましたが、昨年の7月には「川崎市制90周年記念表彰」で奨励賞を受賞しました。これを機会に省エネグループは「真の環境都市川崎を皆様と一緒に目指そう！」と誓いを新たにしました。

2015年度もこの活動をさらに増やし、発展させていきます。



### 企画チーム～初の公開講座開催～

昨年度は初の試みとして一般公開の講演会を企画し、リチウムイオン電池の開発で世界的に有名な旭化成フェロー吉野彰様による「リチウムイオン電池 現在・過去・未来」の講演会を3月に開催した(4頁参照)。また、例年通り、メンバーのスキルアップ講座を2回(5月の徳野様による IPCC レポートコミュニケーターの講演、11月の市役所の前田様による環境行政の取組)と8月には夏休み自由研究「燃料電池を作ろう」の出前講座を実施した。



徳野様の講演風景

2015年度も、一般公開の講演会、夏休みの自由研究、メンバーのスキルアップ講座を実施していきます。

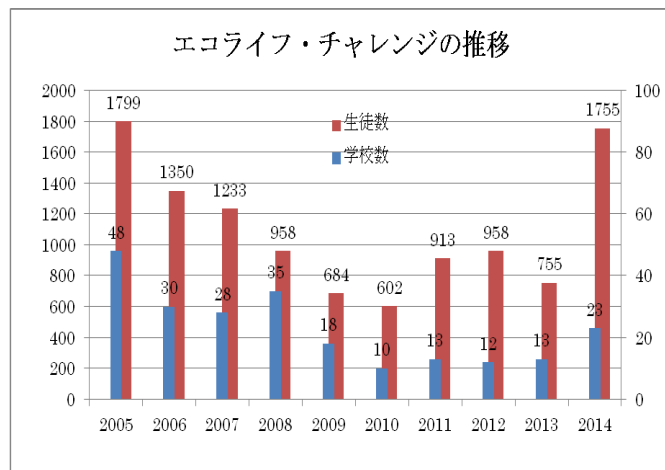
### エコライフチーム～参加児童大幅増～

2014年度のエコライフチャレンジは、従来は夏休み(夏期)だけ行っていたものを、それ以外の時期(主に冬休み:冬期)にも広げて、より多くの家庭での省エネを呼びかけました。夏期は16校(前年比3校増)、参加児童1,194人(前年比439人増)で7年振りに1,000人台を回復し、冬期は7校、参加児童561人で、通年では23校、1,755人の児童が実践しました。

今回あらたに“実践結果を自己評価する”ことを取り入れた結果、家族みんなが子どもたちと協力して積極的にチャレンジする傾向が高まりました。また、チャレンジによるCO2削減効果を「New 家庭の省エネ大事典(財)省エネセンター」に照らして推計した結果、7日間の実践で1家庭当たり2.8kg-CO2の削減効果がありました。

この取組みは子どもたちを通じて一般家庭に広くエコライフスタイルを浸透させることを目的としているので、少なからずその成果を上げていますが、川崎市の家庭部門におけるCO2排出量は2009年以降再び増加傾向にあります。市が掲げる「環境配慮型ライフスタイルの構築」「エネルギー・資源消費の抑制等」の促進のためには一層の普及・啓発活動に努めなければならないと考えています。

2015年度については、前年度の取組みを継続し、当グループが実施している出前授業等の取組と連携しながら参加校、参加児童の拡大を進め、前年を上回る2,000人を目標に活動します。





## エコ楽しみ隊～先生方のコメント～

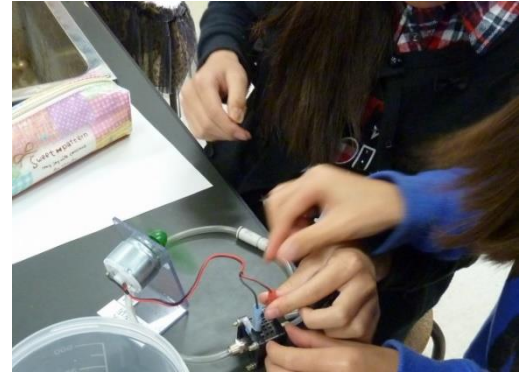
2014年度の環境出前授業は、2月12日を最後に終了しました。小学校は、延べ24校、70クラス、2300名以上の子どもたちが、また県立高等学校は1校、40名の生徒たちが受講し、多くの実績を上げることができました。各学校・関係各位のご協力に深く感謝いたします。

授業の内容は、パワーポイントを使った講義と体験の組合せでの45分授業です。実施した授業プログラムは、「温暖化とは～見て・触れて・感じて！～」が15校、「節電にみんなで取り組もう」が5校、「エネルギーってなあに？」が5校、「はっぱはえらい」が4校でした。2つ以上のプログラムを実施した学校が数校ありました。

授業後の子どもたちへのアンケートからは、①地球温暖化・私たちに出来ること・節電方法について詳しく説明してくれたので、細かい部分までよく分かった。②自分の生活の中で温暖化を進めてしまっていることが分かったので電気をこまめに消すなどに取り組む。③分かりやすい解説や絵などあってとても勉強になった。④温暖化の影響が大変なこと、その温暖化のもとの二酸化炭素を木の葉っぱが吸って

きれいにしてくれるなど、写真で見やすく分り易く覚えやすかった・・・などの声が聞けました。また、先生方からは、①専門的な知識で、子どもたちの理解が深まった。写真やグラフなどの資料も分り易かった。②子どもの実態に即し、分り易い授業をしていただきとても感謝している。③これから始まる環境学習の導入として、とてもよく反応を引き出していただいた・・・など多くのコメントを頂き、メンバー一同喜んでいきます。

また、東京ガス(株)の協力を頂き、体験のグッズを借用したり、一緒に燃料電池の体験を取り入れる協働ができました。



燃料電池でファンを回す体験

新年度に向けて、プログラム内容の見直し等に取り組み、一層分り易い出前授業を目指していきます。

## イベントチーム～見て！触れて！感じて！

2014年度は、17か所のイベントに参画し、約2,585人のブース来場者がありました。

“見て！触れて！感じて！”をテーマとして、「手回し発電機による白熱電球、蛍光灯、LEDの消費電力の違いや豆電球を使つての使用電力の違いを体験」、「ワットメーターを使った各種電灯の消費電力及びCO2排出量の計測」、「模型による燃料電池の発電仕組み」を展示しました。

2015年度については、例年の取組みを継続し、対応可能な限り多くのイベントに参画します。また、当グループの活動紹介もより充実した企画で積極的に行っていきます。



## 広報チーム～読者のご意見を～

昨年度も、省エネグループ通信(3回/年発行)、ポスター(随時更新)、ホームページ(随時更新)の3つの媒体を活用して、省エネグループの活動紹介、地球温暖化防止の啓発活動を行いました。2001年に発足した省エネグループの活動を「省エネグループのあゆみ」としてまとめ、ホームページに掲載しました(アドレスは4頁参照)。また、省エネグループ通信の読者から初めてメールをいただいた。どこかで我々の活動を見てくださる方がいると分かり、大変うれしく、励みにもなりました。

今年度も昨年度と同様にチームメンバー力を合わせて活動します。



4月定例会に出席したメンバー

省エネグループで昨年度から始めた外部講師による公開講演会を、3月12日ミューザ川崎研修室で、ノーベル賞候補の吉野彰氏を迎えて開催した。

本企画は、企画チームが担当しチームメンバーの人脈で、世界的な著名な講師が招へいできた。準備期間が短く、かつ平日、昼間の講演会ということで参加者を募れるかの心配もあった。しかし、当日はノーベル賞候補の話が聞けると言うことで積極的な参加が得られ、会場定員33名一杯の熱い熱気の中で講演会を開催することができた。

世界で初めて開発されたリチウムイオン電池(注)の開発は、この川崎の地で生まれたと言うことにびっくり(塩浜にある旭化成川崎工場での開発、川崎駅近くの東芝工場での製品化)。吉野氏はインダストリー・テクノロジー分野で開発・製品化に貢献した人にしか受賞できないロシアや米国の世界的に名だたる賞等を総なめにしておられる。我々はまさにそういう人に親しく講演してもらっているという喜びと



光栄さを感じた。

吉野氏の講演は、我々参加者のレベルに合わせた分かりやすい内容で、リチウムイオン電池の開発の経緯、リチウムイオン電池の成長の経緯の中で「無から有」を見出す開発の苦難、生産に繋げるまでの道のりを話された。続いて、現在目の前で誰もがその恩恵を享受しているIT(Information technologyの略 情報技術)変革によるIT社会が、このリチウムイオン電池の軽量化と小型化の開発とその他のそれぞれ要素技術がかみ合って実現できたこと。さらに2020年ごろにはET(Environment technologyの略 環境技術)革新によるET社会が実現するだろう、既にその変革例としてアップルやグーグルが自動車会社を買収し、車を運転するという行為から人を運ぶシステムに乗り込む社会に変化していくという将来を示唆する関心のある話をしていただいた。最後は、吉野先生が近いうちにノーベル賞を受賞することを参加者一同で祈念して講演会を終えた。

注:リチウムイオン二次電池(LIB)は現在、携帯電話、ノートパソコン、デジタルカメラ・ビデオ、携帯用音楽プレイヤーを始め幅広い電子・電気機器に搭載され、2010年にはLIB市場は1兆円規模に成長した。小型で軽量のLIB(より安全でエネルギー密度を従来の約3倍に引き上げ)が搭載されることで携帯用IT機器の利便性は大いに増大し、迅速で正確な情報伝達とそれにともなう安全性の向上・生産性の向上・生活の質的改善などに多大な貢献をしている。

—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、カッコよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。

連絡先

川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ  
〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内  
TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350  
E-mail : [office@kwccca.com](mailto:office@kwccca.com)

ホームページ: <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者:省エネグループ代表 八木洋一

